



北海道ブロック



発行人：支部長 木村 眞司

北海道ブロック支部事務局
(市立美唄病院内)
TEL:0126-63-4171
e-mail:hpca.jimukyoku@gmail.com

ニュースレター No.15 (2016.12)

文責 北海道ブロック支部長 副支部長 小嶋 一 (手稲家庭医療クリニック) kojimah@gmail.com
北海道ブロック支部事務局アドレス hpca.jimukyoku@gmail.com

<事務局移転のお知らせ>

市立美唄病院に新事務局が移りました！(メールアドレスはそのままご利用いただけます)
日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部事務局 〒072-0031 北海道美唄市西2条北1丁目1-1
市立美唄病院内 代表電話 0126-63-4171 担当：高倉・今沢

<今後の支部などの行事予定>

【平成 29 年】	2 月 4 日 (土) 14 時	北海道ブロック支部幹事会	場所未定
	3 月 (詳細未定)	第 3 回北海道地域医療ウィンターキャンプ in 美唄	場所：美唄市内
	6 月 24 日 (土)	第 5 回北海道地会	場所：札幌市かでの 2・7
	11 月 25 日 (土)	第 5 回北海道プライマリ・ケアフォーラム・ 北海道医学大会プライマリ・ケア分科会第 2 回学術集会	

<活動報告>

第 3 回北海道地域医療オータムキャンプ in ニセコくっちゃん



平成 28 年 9 月 23 日 (金) 午後～25 日 (日) 午前
医学生対象に地域医療やプライマリ・ケアを体感していただく企画で、第 1 回を幌加内町、第 2 回を寿都町で開催してきましたが、今回はテーマを「病院総合医・病院家庭医」とし、ニセコエリアの中心地、倶知安(くっちゃん)町で開催しました。
倶知安厚生病院総合診療科が中心となり準備を進めてきました。参加した医学生は道内の 1 年生から 4 年生までの 5 名で、前回よりやや人数は少なかったものの、それぞれ大学とは違う医療を経験していただけたのではないかと思います

実際の活動

<9 月 23 日 (金) >

14 時 30 分、倶知安厚生病院にて
木村眞司北海道ブロック支部長挨拶
西江栄二倶知安町長より歓迎の挨拶
参加者の自己紹介
15 時頃より木佐健悟総合診療科主任医長 講義
「倶知安・ニセコエリアの紹介、倶知安厚生病院の紹介、自己紹介、総合診療科の仕事、病院総合医・病院家庭医とは？」(約 1 時間)
16 時より倶知安厚生病院の院内の見学
16 時 30 分より退院支援の多職種症例カンファレンス(退院支援看護師、訪問看護師を交え)他院に通院していた認知症の患者が食欲不振で総合診療科に入院し訪問診療と訪問看護を導入して自宅退院したケースについて、学生とディスカッションしながら、病院総合医・家庭医の観点で問題点を整理しつつ、患者や家族を中心にケアの方針を決めていく流れを体験。
夜は懇親会：倶知安厚生病院名物の病院の車庫での焼肉(宿泊は病院の公宅)

<9 月 24 日 (土) >

朝食として病院食検査体験
9 時から臨床推論型症例カンファレンス
倶知安厚生病院総合診療科稲熊良仁医師
10 時よりフィールドワーク(3つのグループに分かれて実習)

フィールドワーク1『診療圏ドライブ』 留寿都診療所大泉樹先生にご協力いただきました。地域の基幹病院である倶知安厚生病院から車で約 1 時間の留寿都村までドライブし診療圏の広さを実感しつつ、大泉先生に地域医療の現状についてインタビュー。
フィールドワーク2『模擬訪問診療』 倶知安厚生病院総合診療科より訪問診療をしているご家庭のうち、2 人の患者様をお願いし、実際にそれぞれのご自宅にお邪魔させていただきました。普段の生活の様子や病院から訪問診療を受けていることの意味についてお話を聞きました。
フィールドワーク3『倶知安厚生病院救急外来実習』 稲熊良仁医師とともに実際に救急外来に入り、数名の患者さんを診察しました。救急外来は病院によっても様子が違いますし、また初めて見学する学生もいて、それぞれ勉強になったようでした。



午後はグループ発表の準備の時間を兼ねた自由時間（会場はグラン・ヒラフスキー場の麓にあるロッジコロポックル。宿泊もこちら。）その時間を利用して、全道の若手～中堅の病院総合医・家庭医を招いて、『オータムキャンプ隠しイベント 病院総合医・家庭医の裏トーク ～表舞台ではやりにくいマニアックレクチャー、研修プログラム立ち上げ・運営のコツなど盛りだくさん～』と題した企画を行いました。勤医協札幌病院 内科佐藤健太先生、帯広厚生病院 総合診療科 山本浩之先生、市立旭川病院 総合内科 鈴木聡先生、帯広協会病院 総合診療科 堀哲也先生に倶知安にお越しいただき、他に数名の医師や薬剤師、学生が加わりました。内容は総合診療科の立ち上げ、研修プログラムの運営についての悩み、複雑症例の包括的治療戦略の考え方、慢性臓器障害の考え方、といったテーマについて濃厚なディスカッションを行いました。

夕方 17 時 30 分よりフィールドワークグループ発表
その後懇親会となり、4 名の先生も加わりました。学生にとって、様々なロールモデルの話が聞けて良かったのではないかと思います。2 次会では、アドリブでホワイトボードを使ったレクチャーが飛び出すなど、引き続き熱い雰囲気、22 時頃に解散となりました。

<9月25日(日)>

この日はアクティビティでした。倶知安町の郊外で、2 チームに分かれて林の中で水溶性のボールを打ち合うペイントボールというゲームを楽しみ、親睦を深めました。参加者で昼食をとり解散となりました。その後、午後に学生の有志で、これまたニセコで有名なラフティングを体験し、帰路につきました。

<参加した学生の主な感想>

「模擬カンファレンスも勉強になりましたが、2 日目の訪問診療は、本当に感じるどころが多かったです。訪問診療の意義をはじめて認識することができました。」

「規模としては大きめの病院の役割について学ぶと同時に、人口の少ないエリアでどこまで手広く対応していけるのか、など今後の課題も考えさせられました。また、観光地ならではのアクティビティなども体験できて夏休みの最後の週末を充実したものにすることができました。」

「懇親会の時の先生方のホワイトボードを使ったプレゼン大会がとても勉強になりました！ぜひ今後もやっていただきたいです。」

「総合診療、家庭医療について多くのことを考えることができた 3 日間でした。2 日目に救急診療を実際に目にして、現場の空気に触れることができたのは貴重な体験でした。また、夜の懇親会では先生方から多くのお話を聞くことができ、とても勉強になりました。」

「2 日目の懇親会では、普段ほとんど話すことのできない先生方と交流でき、また今後のプランを立てる上でのとても参考になるお話がたくさん聞けました。今回のフィールドワーク(模擬訪問診療、診療所ドライブ、救急外来)を一通り体験できるとさらに良いと思いました。」



北海道ブロック支部幹事会

平成 28 年 10 月 15 日午後 2 時

場所：TKP 駅前カンファレンスセンター

- ・事務局交代のお知らせ 美唄市立病院へ
- ・北海道地方会報告

学術については 10 演題 来年度はフォーラムの中で北海道医学大会のプライマリ・ケア部門の学術発表もあるので、年 2 回の発表になる。

・北海道地域医療オータムキャンプ in ニセコくっちゃん報告（詳細上述）

- ・第 4 回北海道プライマリ・ケアフォーラム進捗状況
- ・来年度の地方会について：実行委員長 山田先生から進捗状況について報告

・プライマリ・ケア研究会 10 月 30 日

・来年のプライマリ・ケアフォーラムについて

平成 29 年 11 月 25 日 北海道医学大会プライマリ・ケア分科会を兼

ねる

- ・来年のプライマリ・ケアキャンプについて 2-3 月に美唄、秋にせたなでの開催を予定

・専攻医について

トータルで 25 から 30 名の専攻医が北海道にいる。顔がみえない専攻医はいるはず。今江、瀬野尾、菅藤で議論を始めた。(山田)

家庭医療やポートフォリオなどにハードルの高さを感じている可能性がある。サイトビジットで専攻医の少ないところに行くのが良いのでは(今江)

インターネット上のポートフォリオ検討会もできるのでは(木村)

- ・総合診療専門医制度、日本専門医機構について(木村)
- ・支部の財政報告

* 次回の幹事会 2017 年 2 月 4 日(土) 午後 2 時から

北海道医学大会プライマリ・ケア分科会（兼北海道プライマリ・ケア研究会学術集会）

* 北海道プライマリ・ケア研究会（長瀬清会長）と共催

平成 28 年 10 月 30 日 場所：北海道医師会館

今回で北海道プライマリ・ケア・研究会主催での開催は最後となりました。

一般演題として 9 題が発表され、東海林哲郎先生の座長で北海道のプライマリ・ケアの多様性がよく理解できる演題でした。またプライマリ・ケア研究会設立を支えた方波見康雄先生の「プライマリケア方法序説」はプライマリ・ケアの原点とも言える方波見先生の臨床現場での物語から見えてくる「プライマリ・ケアの本質とは何か」を教えていただけるような講演で幕を閉じました。座長の長瀬清先生からプライマリ・ケア研究会設立から今回の北海道ブロック支部との連合に至るまでの過程のお話があり、大変貴重な場面に立ち会うことができました（小嶋）

第 4 回北海道プライマリ・ケアフォーラム報告（木村）



平成 28 年 11 月 26 日（土） 場所：かでの 2・7（札幌市中央区北 2 西 7）

去る 11 月 26 日（土）午後、札幌市のかでの 2・7 において第 4 回北海道プライマリ・ケアフォーラムが支部主催、北海道の共催で行われました。今回のテーマは「～一歩踏み出す～」。第 4 回と銘打っていますが、それ以前に「北海道家庭医療フォーラム」として 5 回にわたり北海道プライマリ・ケアネットワークにより行なわれていたものを当支部が引き継いだものですので実質的には今回で 9 回目になります。学生や初期研修医を主たる対象とはしていますが、他の層や多職種をも対象としています。

半年以上にわたり実行委員長勝田琴絵先生（くろまつないブナの森診療所）を中心として実行委員の方々（学生を含む）にご準備いただきました。お陰で非常に魅力的なフォーラムとなりました。

別紙のポスターのようにさまざまなワークショップと基調講演が行なわれ、全道から 150 名の方々（うち学生 47 名！）にご参加いただきました。学生、初期研修医、後期研修医、医師、他の医療スタッフに加え、病院事務職員や行政の方々も参加されました。



（上左から）①学生企画 総合診療って何？～はじめの一歩～ ②多彩なセッティングで縦横無尽に活躍する総合診療医のための臨床推論ワークショップ ③在宅看取りへ一歩踏み出す



（上左から）④患者中心の医療の方法・実践編 ⑤特別企画 災害医療～わたしたちにできることは～ ⑥特別企画 総合診療医キャリアプラン～様々な軌跡～



（上左から全て）基調講演『一歩踏み出す勇気、そしてロングトレイル ～地域医療の現場で学んだこと～』

休憩時には後期研修プログラム紹介も行なわれました。

懇親会にも多数が参加され、楽しいひとときを過ごしました。

フォーラムの裏方として、ブロック支部事務局（市立美唄病院）に加え道庁、民間病院の事務の方々にも献身的にお手伝いいただき、非常に助かりました。

来年度は高石恵一先生（(医) 北海道家庭医療学センター後期研修医）が実行委員長となります。充実したフォーラムになりますよう、支部会員一同で盛り上げてまいります。



<うれしいお知らせ>

北海道には優秀ポートフォリオ受賞者が2名も！

2016年度優秀ポートフォリオ賞受賞者が3名発表されました。うち2名が北海道に在籍しています。

（松澤先生は沖縄県立中部病院プログラム卒）

大久保 彩織医師

北海道勤医協 総合診療・家庭医療・医学教育センター(GPMEC) 勤医協札幌病院

松澤 廣希医師

手稲家庭医療クリニック

ぜひお二人の経験を北海道の総合診療の発展のために活かして欲しいと思います！

<ご質問・ご要望をお寄せください！>

北海道ブロック支部では支部長・副支部長が毎月一回テレビ会議で支部活動に関する議論を行なっております。

副支部長の担当業務は以下の通りです。

支部の活動につきご意見・ご質問があればお気軽にお寄せください！

山田副支部長：地方会、サイトビジット・ポートフォリオ検討会、専攻医関連

臺野副支部長：学生関連、支部広報・ウェブサイト関連

木佐副支部長：ミニ地方会、キャンプ、学術

小嶋副支部長：フォーラム、ニュースレター、議事録